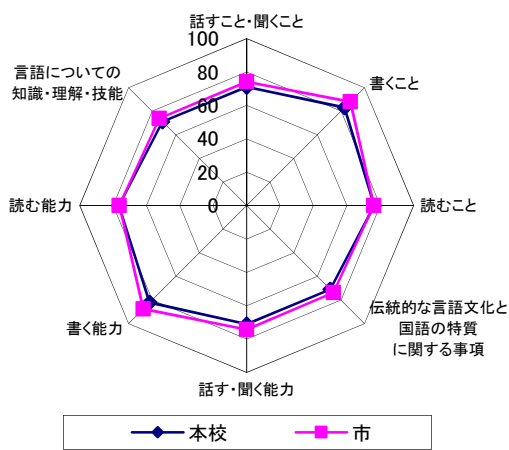


宇都宮市立城山中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	71.0	74.2	68.8
	書くこと	83.1	88.0	73.8
	読むこと	76.5	76.2	71.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.0	73.6	68.8
観点別	話す・聞く能力	71.0	74.2	68.8
	書く能力	82.1	87.5	73.8
	読む能力	76.5	76.2	71.7
	言語についての知識・理解・技能	71.2	74.0	68.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

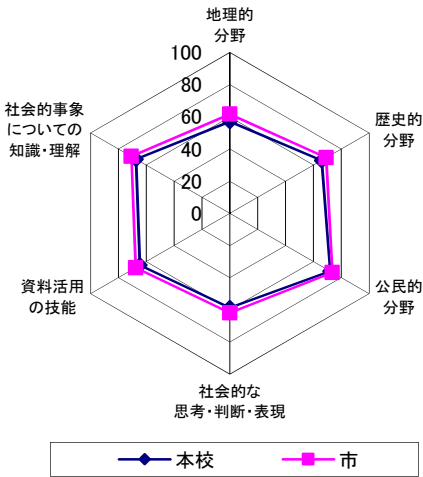
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話の内容を正確に聞き取ることができる」は全国を9ポイント以上、市の平均を4ポイント以上、上回っており、「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる」は、全国の平均を3ポイント以上、上回っていたことから、話し手の意図を捉えて聞き取る力が身についていることが分かる。 ●「司会者の工夫を聞き取ることができる」は市の平均より7ポイント近く下回った。このことから、話の展開を考えて話すことが身についていないので、それを聞きとる力も不足していると考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・メモの取り方についての指導を繰り返し行う。聞き取りテストの解説を行い、重視するところを押さえていくようにしたい。
書くこと	○「指定された文字数で書くことができる」は、市の平均より5ポイントほど下回っていたが、全国平均より17ポイント上回っていた。 ●「自分の立場を明確に書くことができる」は、市の平均を5ポイント以上下回っていた。以上のことから、ある程度の量は書けるが、自分の考えを明確に書く力がついていないことが分かる。	・書く学習において、自分はどのような考えからどのような立場に立っているのか、立場がぶれていないかなどを確認しながら書く指導を意識的に行う。 ・時間内に考えをまとめることも大切であるので、時間を切って書くトレーニングを積んでいく。
読むこと	○「文章の構成や展開をとらえることができる」と「文章の表現の特徴を捉えることができる」は、市の平均を3～5ポイント上回っていることから、説明的文章の構成や展開を捉えて読む力は身に付いているといえる。 ●「登場人物の心情をとらえることができる」は全国、市の平均を下回っていることから、情景描写や登場人物の言動などを手掛かりに文学的文章を読み深める力が不足していることが分かる。	・説明的文章の読解に当たっては、接続語やキーワードを押さえながら、段落ごとのつながりに注意し、構成や展開を捉えていく。 ・文学的文章の読解に当たっては、情景描写や登場人物の発言、行動などに注意しながら心情に迫る読みを行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みは、市と全国の平均を上回るところがあった。 ●漢字の書きは、市の平均を下回っていた。 以上のことから、漢字の読みの力は身に付いているが、書字力が弱いことが分かる。 ●文法事項の敬語は、市の平均を7ポイント以上下回っていたことから、敬語の知識が身に付いていないことが分かる。	・これからも継続して、漢字学習のテキスト、漢字練習帳に取り組み、小テストを実施しながら定着を図り、書けなかった漢字はチェックし、再テストなどを行うようにする。 ・日常生活で使っていけることを目指し、文法については、ワークやフォローアップシート、指導書にある評価プリントを活用し、解説を丁寧に行い、理解を深められる指導を進めていく。敬語に関しては、日常生活で使っていけることを目指し、練習問題に取り組んだり、敬語を使う場を想定し、敬語を使った会話の練習をやっていくなどする。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	57.0	61.7	54.6
	歴史的分野	65.9	69.2	59.6
	公民的分野	71.9	73.6	67.8
観点別	社会的な思考・判断・表現	58.7	61.9	51.9
	資料活用 の技能	64.6	67.7	57.7
	社会的事象についての知識・理解	67.4	70.7	64.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

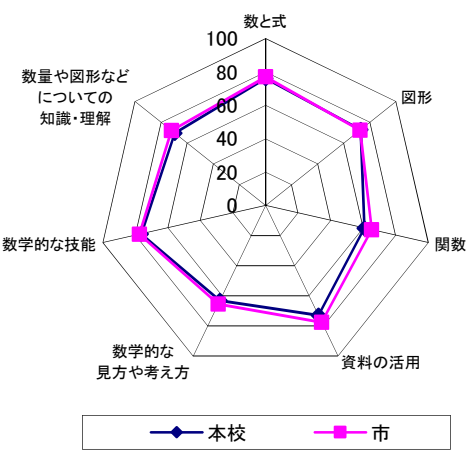
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○地形図の読み取りについては、正答率が74.5%と高い数値を示している。 ●地図とグラフの関連性を読み取ることが苦手である。 ●資料から必要な情報を読み取り、自分なりに分析をすることが苦手である。	・グラフに対する苦手意識をなくすため、グラフ資料を多く活用していく。 ・興味をもつことが自分なりに考える活動につながるため、課題意識をもてるような学習課題を設定する。
歴史的分野	○縄文時代の生活についての正答率は96.9と非常に高く、また市の正答率を上回っている。 ○江戸時代の大名統制については82.7%と市の正答率を3.3ポイント上回っている。 ●知識の理解が特定の時代に偏っている。 ●資料から必要なことを読み取り、自分の言葉で表現することが苦手である。	・事実の羅列とその暗記にならないよう、歴史の大きな流れやそこに生きて活動する「人間」の営みに注目できるような授業を展開する。 ・資料を読み取り、自分の言葉でまとめる作業を意図的に取り入れていく。
公民的分野	○各設問の正答率は概ね市の正答率を上まわっている。 ●資料を参考にして、自分の言葉で表現することが苦手である。	・資料活用、思考判断の場面を多く設定するとともに、それを自分の言葉で文字に表したり、他の人に伝えたりする学習を多く取り入れ、表現力の育成を図る。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	76.2	77.1	71.0
	図形	73.0	72.4	59.3
	関数	60.7	65.2	51.0
	資料の活用	73.0	77.6	67.1
観点別	数学的な見方や考え方	63.2	65.5	48.8
	数学的な技能	76.4	77.5	69.8
	数量や図形などについての知識・理解	69.7	72.1	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

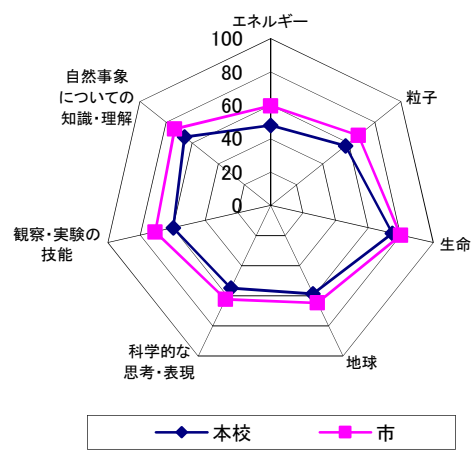
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○多項式と単項式の計算や乗法公式を使つての式の展開の計算は8割～9割前後の正答率である。 ○平方根の問題も市の平均を上回っているものが多く、定着していることがうかがえる。 ●2次方程式を解く問題で、自分で式を作って解く問題については4割を切っており、非常に苦手な生徒が多く課題である。	・「数と式」の領域は、数学全般を学習する上で必要不可欠な部分である。ドリルなどを実施して、しっかりと身に付けさせる必要がある。文章を読んで、自分で式を作って解く問題を苦手としている生徒が多いので、基礎・基本を押さえつつ、応用問題に対応できる力を小テスト形式等を用いて行い、解答・解説を実施する。
図形	○作図する問題については、8割以上の正答率であり、市の平均を上回っている。 ○図形の性質と証明の問題では、市の平均を上回っているものが多く、定着していることが分かる。 ●角柱の直線や平面の位置関係の理解についての問題では、正答率が65%となっており、苦手としている生徒が多い。	・初めは簡単な図形の証明の問題を解くことにより、証明の手順を身に付けさせる。その時、何が仮定で何が結論なのかをしっかりと確認させたい。その後、やや複雑な問題を解かせて、使える条件を十分に利用することの大切さを指導する。また、プリント学習の時間を導入する。
関数	●関数の問題では、1%程度市の平均を下回る問題が多かったのが課題である。 ●文章問題を読み取り、問題文中の関数関係を表すグラフを選ぶ問題が32.7%と、非常に低い。	・グラフを使って、様々な関数の問題演習を行う。その時いろいろな解き方を考えさせたい。また、他の領域との関わりがあるので、わからない時はその都度確認させたい。
資料の活用	○資料の活用の領域で確率を求める問題では、8割を超える正答率となっていて、定着がうかがえる。 ●度数分布表から相対度数を求める問題が、6割程度となっており、苦手としている生徒が多い。	・度数分布表とヒストグラムの関連について、しっかりと定着できるよう確認しながら、授業を進めたい。 ・日常生活の中で確率の考え方が利用されていることに気付かせ、身近なものとしてとらえさせたい。 ・やや複雑な確率の問題にも挑戦させたい。その際、正しく場合分けができるようにする。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	48.1	59.7	57.9
	粒子	57.4	67.4	59.8
	生命	74.8	79.9	73.5
	地球	58.7	64.7	54.6
観点別	科学的な思考・表現	54.9	62.3	56.3
	観察・実験の技能	59.8	70.9	65.4
	自然事象についての知識・理解	65.8	73.5	66.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

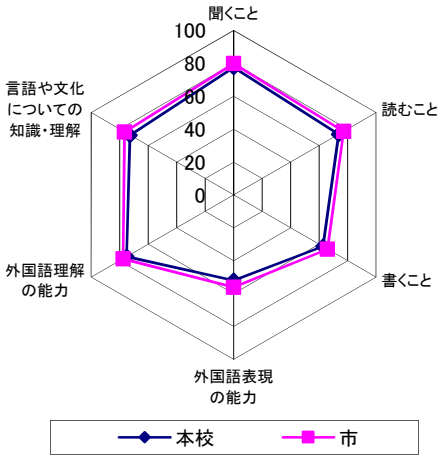
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○「音の性質」では、音の速さと伝わり方を問う問題で、正答率が70%とよくできているので、音の性質は理解できている。 ○「仕事とエネルギー」では、科学的な思考・表現を問う問題で、正答率が70%とよくできているので、知識を活用することができている。 ●「電流と磁界」では、全体的に市の平均を下回っているため、単元全体の知識が定着していないと考えられる。	・実験で学んだことが知識として定着されておらず、結果として思考・表現を問う問題や活用問題の正答率が低い原因の一つとなっている。結果・考察の確認を通して知識を定着させるとともに、身のまわりの事象と関連させ、思考力・表現力の育成を図っていけるよう指導していく。
粒子	○「身のまわりの物質とその性質」では、有機物を熱したときにできる気体を答える問題、金属の性質を答える問題で、正答率がそれぞれ76%、90%とよくできているので、基本的な知識が定着していると考えられる。 ●「物質の成り立ち」では、全体的に市の平均を大きく下回っているため、基本的な知識が定着していないと考えられる。 ●「酸、アルカリとイオン」では、中和が起こっているときのイオンの数の変化を問う問題で、市の平均を12ポイント下回っているため、中和に関する知識を活用することができない。	・物質の成り立ちや、酸、アルカリとイオンでは、粒子概念をもとに思考することが必要なので、1年生の水溶液単元からモデルを使いながら視覚的に理解しやすい説明を行う。 ・化学式や反応式、イオン式が覚えられていないので、小テストを実施しながら知識の定着を図る。
生命	○「動物のからだのつくりとはたらき」では、柔毛と根毛の利点を問う問題で、市の平均とほぼ同じであり、異なる単元で学習したことを関連づけることができている。 ○「生物の成長とふえ方」では、細胞分裂の過程を問う問題では、市の平均を4ポイントほど上回っているため、細胞分裂の過程は理解できている。 ●「植物の分類」では、観察記録から植物を分類する問題で、市の平均を10ポイント下回っているため、知識を活用することが苦手であると考えられる。	・生命単元は多くの専門用語が使われており、その語句や意味の理解が不十分のため、科学的な思考・表現を問われたり、知識を活用したりする場面であまりつまずいてしまふと思われる。小テストや家庭学習の取組を通して、身に付けられるように指導していく。
地球	○「火山」では、花こう岩ではなく、安山岩だけに見られる特徴を答える問題で、正答率がほぼ市の平均と同じであり、火成岩に関する知識が定着している。 ●「前線の通過と天気の変化」では、天気図記号の作図が市の平均を大きく下回っているため、気象要素の知識が定着していないと考えられる。	・地球単元では、実物を見る機会が少なく、専門用語や事象のしくみの理解が不十分になっていると考えられる。標本や視聴覚教材を活用し、知識の習得に繋げられるよう指導していく。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	77.4	79.9	75.7
	読むこと	73.8	77.3	72.8
	書くこと	62.7	66.0	69.3
観点別	外国語表現の能力	52.0	56.1	58.8
	外国語理解の能力	75.1	77.6	72.3
	言語や文化についての知識・理解	72.7	76.6	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○絵の内容を適切に表している英文を答える問題では正答率が高くなっている。 ●対話の内容を聞き取って適切に応答する力や、英文の要点を聞き取る力がやや不足している。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ALTとの授業では、生徒との対話をできるだけ増やし、生徒同士でも場面設定などを工夫していきたい。また、生徒にはできるだけ自然な英語を聞く機会を与えるとともに、CD教材やDVDを使ったリスニング練習を増やすようにして、今後もリスニングの定着を図るように努めていきたい。
読むこと	○対話の流れと、与えられている表や図から適切な会話を判断することや、スピーチの概要を把握して答えることはできていた。 ●文法(語句の配置)の理解についてはばらつきが見られた。また、英文の要点を理解し、適切な返答をすることや、対話における相手の意向に適切に応じる力の向上が求められる。	・英語の文章の段落ごとに、何を言っているのかを簡単にまとめさせる練習を増やし、その概要や要点をつかむような読み方の指導に力を入れていきたい。また、様々な内容の長文を読む機会を増やすなどして、長文に対する苦手意識をなくすようにしていきたい。複数ある疑問詞について、それぞれの意味をしっかりと覚えさせたい。
書くこと	○「自分の夢」については、まとまった内容で説明する3文以上の英作文はできていた。 ●英文を正しい語順で書いたり、対話の流れにあった英文を書くことが難しいようである。また、定冠詞(a,the)の用法を十分に把握していないと思われる。	・日頃より単語の練習に力を入れ、反復練習によって正しいスペリングを覚えるようにさせる。また既習の文型を使っての英作文などを実施して、基本文の定着を図るようにしたい。同時に、基礎・基本の定着を図りつつ、自分自身のことや時事などを、自由に英語で表現する力を身に付けさせたい。

宇都宮市立城山中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
思考力や表現力を高め、自分の考えや意見をわかりやすく説明する力の育成	授業においてホワイトボードを活用したり、ワークシートの記入の仕方を工夫したりして、自分の考えを記入し、全体に説明する機会を設定するようにしている。	「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」に肯定的に回答した生徒の割合は1年生で62.0%、2年生で68.1%、3年生は73.7%と学年が上がるに従って肯定率が上昇している。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「宿題プラスワン」を地域学校園での合い言葉とし、自主的な家庭学習への取組を習慣化させるようにする。	「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に肯定的に回答した生徒の割合は1年生で55.4%、2年生で60.6%、3年生で65.7%と学年があがるに従って肯定率が上昇している。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県・市の調査ともに、記述式の問題を比べると正答率がそれぞれの平均より下回っていることが多かったが、3年生の国語と数学、2年生の社会と理科などは正答率を上回ることができ、思考力・表現力の育成に取り組んできた結果が出てきたと考えられる。次年度も継続して、ホワイトボードに自分たちの考えをまとめて発表したり、ワークシートに自分の考えをわかりやすく表現する指導を充実させ、一層の表現力の育成に努める。

・国・市の調査ともに「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」に肯定的に回答した割合は1・2年生は市や県をやや下回ったが、3年生は10ポイント上回った。地域学校園として「宿題プラスワン」を合い言葉に家庭学習を習慣化させる取組が効果が3年間を通して上がってきていると思われる。次年度も自主学習に取り組む指導を充実させていきたい。